



給食いまむかし・・・

## 学校給食に歴史あり

川口市立朝日西小学校  
令和2年12月21日



全国 学校給食週間



毎年1月24日～30日は「全国学校給食週間」です。日々の給食を振り返り、給食への理解を深めてもらえると嬉しいです。

毎日出ている給食も、時代の影響を受けながら様々な変化をしてきました。学校給食の歴史をここで紹介します。

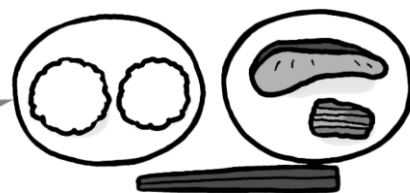
## 学校給食の歴史

全国学校給食週間  
1月24日～30日

日本の学校給食は明治22(1889)年、山形県鶴岡市で始まりました。戦争による中断を経て、昭和22(1947)年1月から都市部の小学校を中心に再開。昭和29(1954)年には学校給食法が制定され、学校教育の一環として位置づけられています。そして今日まで日本の子どもたちの健やかな成長を支えています。

明治22(1889)年

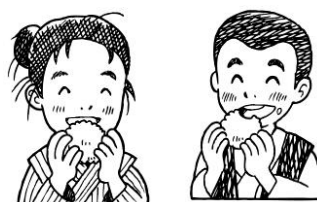
山形県鶴岡町(現・鶴岡市)私立忠愛小学校で日本初の学校給食が行われました。その後、全国各地で給食が実施されていましたが、太平洋戦争が始まると物資不足等から中断に追い込まれてしまいました。



おにぎり、塩さけ、菜の漬物

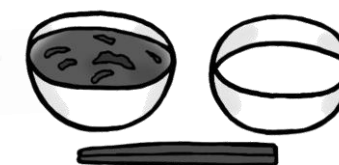
昭和21(1946)年12月24日

米の援助団体ララからの支援物資により、学校給食が再開。この日を「学校給食感謝の日」と決めました。その後、ユニセフなどからも脱脂粉乳などの寄贈を受けました。



昭和25(1950)年

ララやユニセフなどに感謝し、学校給食が戦後再出発した意義を考え、冬休みと重ならない1月24日から30日までの1週間を「全国学校給食週間」としました。



ミルク(脱脂粉乳)、トマトシチュー

昭和29(1954)年

学校給食法が制定されました。学校給食を教育活動の1つに位置づけました。



コッペパン、ミルク(脱脂粉乳)、くじら肉の竜田揚げ、せんきゃべツ、ジャム

平成17(2005)年

食育基本法が制定されました。食は知育・徳育・体育の基礎となり、生きる力を育むもので、食を社会全体の問題として扱うことをうたっています。学校給食も食育推進の中心的な役割を担っています。

みんなの今の給食と比べてみて、どう思うかな?



### \* 1月29日の給食は特別献立です \*

【1月29日の献立】

- ・ごまみそうどん
- ・牛乳
- ・くじら肉の甘辛揚げ
- ・りんご

くじら肉は、昭和30～40年代の学校給食によく登場していました。当時の日本ではくじらがよく獲れたので、価格も安く、またたんぱく質などの栄養が豊富だったため、育ち盛りの子どもたちには欠かせない栄養源でした。しかし、昭和45年頃からくじらを獲得することが制限され、価格が上がってしまい、学校給食のメニューではあまり見かけなくなりました。昨年から商業捕鯨が再開されましたが、普段食べる機会がまだまだ少ないくじら肉です。給食では特別に29日に登場します。



## 七草

七草とは、1月7日の朝に春の七草を入れたおかゆを食べて1年の健康を祈る風習です。

春の七草とは、せり、なすな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな(かぶ)、すずしろ(だいこん)のことです。これを包丁などで細かくたたきおかゆに入れます。七草をたたく時は「七草なすな～」などと歌う地域もあります。

